令和8年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書

（令和7年度事業）

令和8年9月

日野市ふるさと文化財課

（郷土資料館）

目次

1 はじめに ……1

2 評価の目的 ……1

3 郷土資料館の現状 ……1
(1)組織と職員
(2)主な業務

4 評価の実施方法 ……1

5 評価の対象 ……2

6 評価の結果 ……2

7 写真で見る日野市郷土資料館 ……4

8 事業別 日野市郷土資料館の運営状況の評価表 ……5～9

参考資料

Ⅰ 令和7年度 日野市郷土資料館の活動状況 ……10～18

Ⅱ 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱 ……19

Ⅲ 第11期日野市郷土資料館協議会委員名簿 ……20

1 はじめに

平成15年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、郷土資料館協議会の御意見をいただき自ら評価を行い、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成20年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成21年3月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

令和7年度 ふるさと文化財課 (令和8年3月 31 日)

館長1 人(教育部参事 ふるさと文化財課長事務取扱兼郷土資料館長)

〔庶務係〕係長1人、再任用 1 人

〔学芸係〕係長1人、主査3人、主任5、主事 2 人(うち学芸員 10 人)、会計年度職員3人(うち学芸員2人)

(2) 主な業務

平成17年4月1日、ふるさと博物館から組織変更した日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。令和3年4月から郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、生涯学習課文化財係が組織統合し「ふるさと文化財課」となり郷土資料館の使命を引き継いで運営しています。

① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
② 資料の調査研究に関する業務
③ 資料の普及広報活動に関する業務
④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年１回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるように努めていきます。

5　評価の対象　　令和7年度評価は、次の5事業を対象としました。

No.1　学校教育との連携事業

No.2　展示開催事業

No.3　資料の収集・調査・整理事業

No.4　百草・倉沢エコミュージアム事業

No.5　講座・体験学習事業

6　評価の結果

＜＜郷土資料館協議会の評価・意見＞＞

令和7年度評価対象事業の項目別概要は次の通りです。

No.1 学校教育との連携事業

学校からの社会科見学や職場体験への対応について良い評価をいただきました。また、わかば教室でも体験的な学びに子どもたちが前向きに参加していることから、郷土資料館が提供できる体験的な学びのメニューを提示し選べるとよいとの提案をいただきました。また、学校教育との連携だけでなく、高齢者施設や放課後デイサービスなどに郷土資料館を活用してもらう可能性を提案いただきました。

No.2 展示開催事業

戦後80年展や、川漁に関する企画展では、内容や展示方法について良い評価をいただきました。また展示の広報が十分ではないとの指摘や、展示内容を学校の事前学習などにも、もっと活かせるのではないかとの提案をいただきました。

No.3　資料の収集・調査・整理事業

市民協同で進める調査活動が評価された一方で、高齢化等による担い手不足問題が話題となり、ホームページでの活動紹介や参加募集の提案をいただきました。調査報告書など印刷物の内容を評価いただくとともに、発信の際の体裁の統一化について助言をいただきました。

No.4　百草・倉沢エコミュージアム事業

子ども向けの体験事業や、市民協働調査の参加者の様子から、楽しみながら学ぶ事業として評価を得ました。また、興味関心が薄い人への周知方法の工夫が必要であるとのご意見をいただきました。『百草倉沢地区歴史散策ガイド』の改訂版発行には、この資料を活用した散策を推奨されました。

No.5　講座・体験学習事業

児童館と連携した子ども向けの事業が、大人も興味が向くようなタイトルだと好評でした。子ども向けの行事は楽しめることを前面に出して、歴史への興味につなげていくことが大事とのご意見をいただきました。縄文体験の作品づくりには実用的なものの製作が喜ばれるとの助言をいただきました。

＜＜郷土資料館の自己評価＞＞

ふるさと文化財課は、令和３年４月の発足以来、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、文化財担当といった別組織で行ってきた業務を継続・深化し、地域の文化財を面としてとらえ文化財の総合的な把握を

行うことを目標としてきました。また、資料の収蔵スペースが課題となる中で、郷土資料館の仕事や文化財を保存・継承する意義を発信することに努めています。令和7年度の主な取り組みと成果は以下のとおりです

学校教育との連携事業では、引き続き社会科見学や出前授業・見学会・職場体験を積極的に行いました。長い時の流れの中で残されてきたもの、先人たちの知恵などに触れることで、子どもたちの学びのきっかけをつくることができました。

展示開催事業では、新選組だけではない、日野の歴史・文化・自然を伝える様々なテーマを設定しました。また、郷土資料館の中だけではなく、図書館や市役所などでの出張展示も行い、広く見ていただける機会をつくりました。「日野の川漁展」は日野市ならではの中身の濃い展示であると高く評価いただき、「戦後80 年展」は若い世代に自分事として感じてもらえるような展示内容として多くの方に来館いただきました。勝五郎生まれ変わり物語を題材にした展示は、この物語を世界に紹介した「小泉八雲」が連続テレビドラマに取り上げられる時期に合わせた開催としたことで、より関心を持ってもらうことができました。かねてよりご指摘いただいている広報については、来館者にSNSで発信してもらうといった提案など、より多くの方に届くよう工夫を続けてまいります。

資料の収集・調査・整理事業は、すべての事業の基礎となるものとして丁寧に継続して行っているものです。近年取り組み始めた歴史的公文書のデジタル化は、多くの時間を要する整理作業や公開のための個人情報の確認、何をどのように残すかの基準作成などが課題です。関係課と連携して進めていく必要があります。

百草・倉沢エコミュージアム事業および資料館講座・体験学習事業では、市民参加や体験学習を通じて、文化財を保存・継承する意義をより深く学ぶ事業となっています。参加者の多くは高齢の方ですが、熱心に取り組まれており、定例事業参加者にはイベントの際に講師や指導補助の役割を担っていただくなど学びの循環にもなっています。また、児童館との協働イベントでは、子どもを惹きつける入口を開いてもらうことができました。児童館とは今後もぜひ連携をしていきたいと思います。

いただいたご意見・ご提案を受けとめ、郷土資料館が、収集・調査・整理した資料等を市民に広く発信し、地域の文化財を保存・継承することにつなげるよう取り組んでまいります。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、5 ページ以降の評価表のとおりです。

7　写真でみる日野市郷土資料館

郷土資料館は、日野市を調べ、館内での展示のほか出張展示・体験学習・野外講座など様々な方法でふるさと日野を伝えています。



企画展「日野の川漁 鮎をめぐるいとなみ」



企画展「明日に伝える戦争体験 戦後 80 年
～平和をつなぐ」



特別展「小泉八雲と勝五郎生まれ変わり物語」



程久保川の昔と今を歩く



土器水洗いと縄文マグネット作り



春の百草真堂が谷戸を訪ねて

8　日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目　No.1　学校教育との連携事業
事業の概要 ・小中高等学校、幼稚園・保育園などの活動に協力し、子どもたちへの文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中高等学校などの要望を取り入れた内容で行う。 ・授業などに用いる写真資料や、参考文献などの情報を提供し、見学場所や人材紹介などを行う。 ・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。 ・学校教育や郷土教育推進研究委員会と連携し、郷土に関する情報の発信を行う。
事業の成果 ・わかば教室の脱穀体験授業は毎年実施している。昔の道具を使用する作業により先人の知恵を学ぶ体験を通して生徒の好奇心を育み、学習への意欲につながる機会を提供できた。 ・七生特別支援学校高等部の地域学習や職場体験は、ここ数年継続して実施しており、定着しつつある。 ・社会科見学や地域学習など小中高等学校、大学の見学や職場体験での来館は18件。出張授業は、日野の産業、巽聖歌、昔の道具についてなど13件あり、学校教育に貢献できた。
協議会の意見 ・小学校・中学校ともに、総合的な学習の時間や職場体験など、様々な授業・活動で郷土資料館を利用し、子どもたちの学び方を深めていくことに繋がっている。 ・わかば教室での体験的な学びでは、子どもたちが前向きに参加している。体験的な学びについてのメニューを資料館で示してくれるとよい。子どもたちが興味を持ったメニューを選択できると、少人数対象ならではの利点を生かした資料館活用ができる。 ・学校だけではなく、高齢者施設の団体見学もある。民具を活用した「回想法」も注目されている、出張事業も含めて事業化も可能ではないか。また放課後デイサービスの需要もあるのではないか。
課題と改善策 ・学校教育と連携してニーズを把握し、学校が所在する地域の特徴、目的や児童生徒の状況にあわせて資料を選択し、時には体験内容を選ばせるなど、子どもたちが主体的に興味を持って学べるメニューを用意して提案する。 ・学校教育との連携の実績を生かし、高齢者施設や放課後デイサービスといった、福祉事業所に対して、展示案内などの働きかけを行い。資料館の利用者の拡大をはかる。 ・郷土資料館は、寄贈された地域資料を保存活用する役割を担っている。学習内容とともに、目の前にある資料の大切さを子どもたちに伝える必要がある。 ・郷土資料館を活用している学校からは好評を得ている。郷土資料館の活用について、より理解を拡げるために、教育センターと連携し、校務支援システムを活用するなど郷土資料館の活用事例を伝える。また、教育センターを訪れる教諭への資料館周知を図る。

事業項目　No.2　展示開催事業

事業の概要

・郷土資料館では、旧小学校舎の3教室分で資料を収蔵しながら、日野の歴史・文化・自然を伝えている。様々なテーマを設定した企画展示を実施し地域理解を深めた。廊下壁面にもパネルを展示した。
・より多くの方にふるさと日野を伝えるため、イベントや公共施設内での出張展示を実施した。
・新選組のふるさと歴史館においては、郷土資料館開館二十周年記念特別展示などを開催した。

＜展示テーマ＞

・特別展:　◎小泉八雲と勝五郎生まれ変わり物語（会場：新選組のふるさと歴史館）
・郷土資料館企画展:◎「日野の川漁　鮎をめぐるいとなみ」、◎「明日に伝える戦争体験　戦後　80　年～平和をつなぐ」、◎「平山季重と西党～日野の武蔵武士の痕跡を求めて～」、◎「昔の道具～モノからたどる日野市のくらし～　その 1.衣食住の道具」
・郷土資料館パネル展:「富士山と日野」
・出張展示：◎平山季重ふれあい館「花も実もある七生丘陵散策コース（草編）」「七生丘陵散策コースで発見　絶滅危惧種」、◎高幡図書館「電車とバス高幡不動駅と地域交通の発達」、◎市役所1階ロビー「明日に伝える戦争体験　戦後 80 年～平和をつなぐ」、◎旭が丘中央公園「巽聖歌」

事業の成果

・郷土資料館開館後に開始した勝五郎生まれ変わり物語についての調査団活動は成果を積み上げ、それをもとに特別展を開催した。連続テレビドラマに小泉八雲が取り上げられた時期に合わせたこともあり、全国へ発信できるテーマとして注目を集めた。
・戦後80年展では、若い世代に戦争を自分事としてとらえてもらうために、資料に合わせた物語を作り、わかりやすいパネル展示をこころがけた。さらに職場体験に来た中学生が感じとった戦争を、言葉やイラストで表現してもらい、合わせて展示した。戦争を次世代に伝えていく展示となった。
・平山季重展では、資料が限られている中、市内に伝わる伝承や考古学の成果について紹介した。また、来館者から平山季重に関する資料や情報を提供していただき、展示を行うことにより、関連情報を広く収集することができる可能性がうかがえた。
・「日野の川漁～鮎をめぐるいとなみ～」では、量質ともに充実する日野市所蔵の川漁関連資料のうち、鮎漁に関する史料を関連資料と共に公開し、地域の漁労文化を改めて周知し、その理解を深めることができた。
・「昔の道具～モノからたどる日野市のくらし～　その 1.衣食住の道具」では、生活道具の変遷を地域の変化と併せて紹介することで、日野市域の生活文化の移り変わりを明らかにした。開催期間中に学校単位での見学もあり、子どもたちの学習にも貢献できた。
・出張展示では、高幡図書館では高幡不動駅と地域交通、旭が丘中央公園では巽聖歌、といったように、地域に根ざしたテーマでの展示を行い、多くの市民に、「ふるさと日野」を紹介する機会をもつことができた。また、絶滅危惧種に関する展示は七生丘陵調査団が活動の成果をまとめたもので市民協働の成果発表の機会となった。

協議会の意見

・戦後 80 年展は、7、8 月の来館者数の増加から、反響の大きさが読める。中学生の描画が展示されるなど、より自分事として感じられてとても良かった。
・様々な企画展示を開催しても知られていないのではないか。いろいろな場所に掲示をするなど PR に努めてほしい。
・川漁展は、日野にしかない資料が展示され、学芸員の研究成果が反映された中身の濃い展示であった。日野市が中心となり、ほかの場所でも展開ができるような貴重な展示であり、今後にも期待したい。
・川漁展に関しては、市内の小学校で「ガサガサ体験」（用水などで水中の生き物をさがす体験）を実施しているところがあり、その事前学習として、市内の川漁を学ぶ教材になるのではないか。
・廊下のパネル展「富士山と日野」は、大変興味深く、PR の方法によっては SNS 映えするのではないか。また市民主体の実施であることがよい。

課題と改善策

・イベント会場や公共施設などでの出張展示を引き続き開催し、気軽に「ふるさと日野」に触れる機会をつくる。
・戦後展は今後も継続して開催予定のため、毎年度テーマや展示方法を工夫し、地域の歴史や平和について伝える。
・毎年定番の「昔の道具」だけでなく、企画展のテーマにより学校教育での活用の提案を行う。
・展示開催情報の広報が十分ではないため、対象や内容を考慮し、より一層の周知に努める。
・日野市域に留まらない展示テーマでは、他館と連携しての開催も視野に入れる。

事業項目 No.3 資料の収集・調査・整理事業

事業の概要

・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。
・個人所蔵資料の調査や資料受領を行い、地域の文化財として収集し活用する。
・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、事業への助言を受ける。
・調査で得られた成果を展示や講座・見学会、読み物、刊行物などで紹介し、市民の利用に供する。
・「歴史的公文書デジタル化事業」のための準備作業を行った。

事業の成果

・市内借用文書など地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影・市域にある建造物やその他関連資料の調査・収集を行った。
・衣紋かけ、電動水車模型、昭和初期教科書、出征時寄せ書き、古文書、生活用具などの資料寄贈があった。
・市民協働調査（程久保ボランティア、サイノカミ・どんど焼き勉強会、七生丘陵調査団）を行い、脱穀機調査（万石、くるり棒、唐箕、足踏脱穀機の計測、文字情報の採取等）やサイノカミ調査（コロナ禍におけるサイノカミ・どんど焼き行事のまとめ、変化するサイノカミ行事の記録）、植物の調査などを行った。なお、脱穀機調査の成果は、令和8年4月から開催した企画展「農具の流通～モノからたどる日野市のくらし②」で公開している。
・『Lafcadio Hearn,Gleanings in Buddha-Fields』（『仏の畠の落穂集』初版）、「武州多磨郡百草村松連寺略縁起百草松連寺関係刷物」、『つくし』8号・9号など、市域に関連する資料を購入した。
・「小林権大夫年貢割付状」ほか、絵図・地図類の接合裏打ちなど9点の古文書裏打ち修復を行い、資料の保全を行った。
・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考に上記事業を進めた。
・日野の古文書を読む会研究部会や日野の昭和史を綴る会との協働調査を行った。
・歴史的公文書デジタル化のための準備作業として、文書を年度別に仕分ける作業を行った。

協議会の意見

・HP などでボランティアの活動紹介や参加者募集があると、興味を持って参加したい方がいるのではないか。
・市民参加の調査が活発で活動成果がでている。報告書では延べ人数なので、各グループの人数がわからない。
・以前発行されたどんど焼きの調査報告書は、他自治体ではやっていないような悉皆調査の見事なものだった。このような地域の行事がコロナを契機にしてどうなったのかといった成果も公表されるのだろう、期待している。
・成果となる印刷物・配布物のスタイルが統一されていない、ナンバー表示やシリーズ化等、アーカイブできるように体裁を揃えてはどうか。

課題と改善策

・どんど焼き調査や民具展示などを参考に、引き続き市民参加の調査活動の成果を展示等につなげていく。その他の市民協働で進めている調査活動についても、展示や講座、HP等で紹介することにより、新規市民の参加や、次世代の育成につなげていく。
・日頃からの情報収集や地域の方とのコミュニケーションを大切にして、地域を物語る資料を収集し基礎研究を蓄積する。また、これまで蓄積されてきた地域情報の原資料の保存と、そのデジタル化をすすめる。
・蓄積しやすい統一性を持った印刷物・配布物の作成を心がける。
・歴史的公文書のデジタル化に伴う整理作業には多くの時間を要し、公開のための個人情報の確認等の準備作業も課題となっている。今後は、図書館や文書管理を所管する総務課と連携し、歴史的公文書（日野市重要文書）の保存活用に取り組む。

事業項目　No.4　百草・倉沢エコミュージアム事業

事業の概要

・平成18年「真慈悲寺調査推進プロジェクト」の発足を契機に、百草倉沢地区の歴史・文化の調査、研究、普及活動を実施してきた。実施にあたっては、調査活動、現地ガイドも市民ボランティアが務め、真慈悲寺を含む百草地域の歴史を発信してきた。
・令和3年度からは、「百草・倉沢エコミュージアム」と称し、百草・倉沢地域全体を「屋根のないミュージアム」としてとらえ、史跡や自然といった地域の魅力を発信していく事業を展開している。万蔵院台遺跡の縄文土器の調査整理を行う市民（略称：考古隊）と共に活動を行ってきた。
・これらの活動は、百草にある真慈悲寺調査センターを拠点としている。

事業の成果

・令和7年度は、真慈悲寺調査の会や考古隊の市民と協働で調査活動を実施することで、百草地域の歴史を体験的に学ぶ機会を提供するとともに、広く知らせることができた。

＜真慈悲寺調査研究事業＞

・真慈悲寺現地イベント、パネル展や講演会などを実施した。真慈悲寺研究会は月2回実施し、主に百草倉沢地域の一般向け歴史ガイドの増補・改定版を編集し発行に至った。また、真慈悲寺イベントや出張公民「観」イベントでは市民による解説ガイドが行われた。
・令和7年度は真慈悲寺を中心とした百草地域の歴史が複数回メディアに取り上げられ、新たな層への周知につながった。

＜万蔵院台遺跡縄文資料調査事業＞

・寄贈された縄文土器・石器（万蔵院台遺跡縄文コレクション）の整理作業を市民協働で実施した。整理作業は単純作業から技術を要する拓本、図化作業へと移行し、参加者の学びへとつながっている。また、今年度も東京都埋蔵文化財センターと連携し、前年度に同センターで製作した土器を実際に使用した「縄文土器煮炊き実験」を行った。考古学体験では、考古隊がスタッフとして指導補助を行った。

＜そのほかの普及事業＞

・子ども向け講座では「水洗い・縄文マグネット作り」を実施した。「春の百草真堂が谷戸を訪ねて」では、保全活動を行っている真堂が谷戸蛍の会に講師を依頼し連携をはかった。出張講座「縄文土器拓本体験」（考古隊・出張公民「観」イベントへの参加）を行い広く市民の関心を集めることができた。

協議会の意見

・わかば教室にて、以前土器の水洗いを体験して子どもは非常に喜んでおり、続けていただきたい。
・百草・倉沢地域に親しみをもつ人は継続していける。これからも先を繋ぐ人が出てくると感じる事業。百草には真慈悲寺とか万蔵院台遺跡の縄文遺物とかが注目され集まりやすい。日野市の他地域でも取り組みができれば楽しいだろう。
・参加者の高齢化と言われるが、若い世代は忙しく参加が難しい。人口比からも高齢者が集まることは批判されることではないと思う。
・万蔵院台も真慈悲寺も、市民参加といっても職員が熱心にまとめており感謝する。
・全く興味のない人に、伝えるにはどうするかが課題。未発表資料だからとか難しいことはあるだろうが、一般の人に Instagram などで自由に発信させたほうがよいと思う。
・今回増補・改訂版が発行された『百草倉沢地区歴史散策ガイド』はとても良い本なので、これを見ながら散策することを薦める。

課題と改善策

・エコミュージアム事業の一般市民への普及が十分ではない。SNSを活用しての発信や、イベント会場での展示や体験学習会など、多くの人の目にとまり、子どもや元々地域の歴史や文化財への関心が薄い人にも気軽に楽しめる機会を提供する。
・エコミュージアム発展のために、地域の団体、農家、関連企業などとの連携は欠かせない。調査や見学会などでの協力依頼や、イベントでの出張体験会といった地域への貢献といった具体的なつながりの機会を作り関係を継続させる。
・万蔵院台遺跡縄文コレクションの整理作業が進展し、考古隊の知識・技術も向上してきた。考古隊メンバーが学習会の補助や報告書作成に向けた作業も含め、普及活動も共に行う体制で事業に広がりをもたせる。
・真慈悲寺調査センター内での活動に留まらずに、屋外での事業も推進できるよう、事業全体の時間配分を行う。

事業項目　No.5　資料館講座・体験学習事業

事業の概要
・古文書講座
・日野桑園第一蚕室の公開と体験的講座（糸繰り体験）
・たきび祭前夜祭～お話しと朗読・歌のつどい。お話「生誕 120 年記念 巽聖歌と与田準一」、巽聖歌と金子みすず作品の朗読、巽聖歌の歌、キャンドルサービスなど
・勝五郎生まれ変わり物語　講演会「藤蔵墓所の調査と各地の転生譚―生まれ変わりの民俗学序説―」及び「明治の生まれ変わり譚をめぐって」の開催。
・「程久保川の昔と今を歩く」、「化石でたどる大昔の日野」、「東光寺・四ツ谷ミステリーツアー さかえまち児童館ハイキング」といった野外講座を実施。

事業の成果
・毎年開催の古文書講座は受講意欲の高い参加者が多かった。
・勝五郎生まれ変わり物語や、七生丘陵などの講座や体験学習の実施にあたって、市民団体と協働で実施することで、市民の力を活かし、参加する市民へ学ぶ楽しみも伝えることができた。
・第18回たきび祭では、地域イベントの主役である「巽聖歌」について、毎年テーマを変えて継続して伝えることができた。
・国登録有形文化財の日野桑園第一蚕室の公開は、公園でイベントが開催される日に合わせて実施することで、多くの来場があった。また、糸繰り体験の実施により、建物の紹介にとどまらず、日野と蚕糸との深い関わりを子どもから大人まで幅広い世代に伝えることができた。
・「東光寺・四ツ谷ミステリーツアー さかえまち児童館ハイキング」では、企画段階から当日の案内まで児童館と協働で行った。コース設定や素材提供を行うことで地域の情報が充実し、子どもたちに楽しみながら地域を学ぶ機会を提供できた。

協議会の意見
・「東光寺四ツ谷ミステリーツアー」はタイトルからも面白そう。大人でも参加したい。今後も児童館との協働で何かできたらよい。
・子どもたちが楽しそうなイベントを入口としたら、歴史にも視野が広がると思う。
・縄文マグネットづくりイベントについては、コースター、キーホルダー、箸置きなど実用的なものの製作が喜ばれると思うので、今後工夫してほしい。

課題と改善策
・子どもや幅広い世代に向けて、気軽に参加できる郷土や地域を知る講座や体験学習会の開催を行う。
・郷土資料館が実施する展示や資料収集・調査などの活動は、市民全般に知られてはいない。講座や体験学習会への参加をきっかけに、それらの活動の大切さも伝える。
・講座や学習会の企画にあたっては、楽しさや大切さが伝わるテーマやタイトルの設定を行う。
・市民団体との協働調査や講座などの普及事業は意義のある活動であるが、高齢化、担い手不足の傾向があり、新たな呼びかけ、可能な方法での参加といった対策を講じる。
・他館での事例や参加者の感想なども参考にして内容を充実させ、参加者がより満足する講座や学習会を企画する。

＜参考資料＞　　Ⅰ　令和7年度　日野市郷土資料館の活動状況

1　郷土資料館協議会

開催日 会場	議 事 案 件
R7.7.30 郷土資料館	(1) 第 10 期郷土資料館協議会委員の変更について (2) 協議　日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価について（令和 6 年度事業） (3) 報告　令和 7 年度事業について (4) 報告　日野本町地区公共施設再編について (5) 報告　復原住居について ※会議後、企画展見学
R7.10.31 日野市役所 新選組のふるさと歴史館	(1) 報告　令和 7 年度郷土資料館およびふるさと文化財課事業について (2) 報告　令和 8 年度事業について ※会議後、新選組のふるさと歴史館特別展見学
R8.2.26 郷土資料館	(1) 報告　令和 7 年度事業について (2) 報告　令和 8 年度郷土資料館およびふるさと文化財課事業について ※会議後、企画展見学

2　展示・運営事業

(1) 月別来館者数（団体も含む来館者数）

月	入館者数
4月	184
5月	268
6月	194
7月	696
8月	568
9月	665
10月	674
11月	469
12月	536
1月	459
2月	485
3月	538
合計	5,736

(2) 企画展示別来館者数（団体も含む来館者数）

展　示　名	展示期間	入館者数
企画展「ひのっ子お買い物展～モノの値段・モノの流れ～」	R6.12.14～ R7.5.18	379 令和 7 年度分
企画展「日野の川漁　鮎をめぐるいとなみ」	R7.5.24～7.21	657
企画展「明日に伝える戦争体験　戦後 80 年～平和をつなぐ」	R7.7.26～10.19	1,938
企画展「平山季重と西党～日野の武蔵武士の痕跡を求めて～」	R7.10.25～R8.2.1	1,646

企画展「昔の道具～モノからたどる日野市のくらし～　その1.衣食住の道具」	R8.2.7～4.5	983 令和7年度分
パネル展「富士山と日野」	R7.6.20～	―
※ パネル展は企画展と同時開催のため来館者数の記入なし。		

企画展「日野の川漁　鮎をめぐるいとなみ」展示解説
R7.6.21 午前 5 人　　R7.7.12 午前 3 人、午後 4 人

企画展「明日に伝える戦争体験　戦後 80 年～平和をつなぐ」展示解説
R7.7.27 午前　1 人　午後 9 人
R7.8.15 午前　20 人　午後 5 人
R7.8.17 午前　8 人　午後 3 人

（3）学校等団体来館者数

月 日	学校名等	対 象	内 容	人数
R7.5.27	明星大学	3・4年	展示見学（地域学習）	4
R7.6.26・27	七生特別支援学校	高等部2年	職場体験	4
R7.7.3・4	三沢中学校	2年	職場体験	12
R7.9.24	日野第五小学校	3年	社会科見学	140
R7.10.2・3	日野第三中学校	2年	職場体験	8
R7.10.7	日野第七小学校	3年	社会科見学	117
R7.10.8・9	日野第四中学校	2年	職場体験	6
R7.10.17	日野第一中学校	1年	日野市研究	12
R7.10.16・17	日野第一中学校	2年	職場体験	8
R7.11.13	わかば教室	小・中	脱穀体験	25
R7.11.18	七生中学校	1年	ミニフィールドワーク	6
R7.11.25	滝合小学校	3年	社会科見学	62
R7.11.27・28	日野第二中学校	2年	職場体験	10
R7.12.2	仲田小学校	3年	社会科見学	82
R7.12.2	夢が丘小学校	3年	総合学習	25
R7.12.4	七生特別支援学校	高等部1年	社会科　産業と生活	37
R8.2.12	七生緑小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	62
R8.2.25	夢が丘小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	54
R8.3.12	川崎市　宮前区民生委員児童委員協議会	大人	施設見学	24
合計	19件			698

3　市刊行物の有償頒布

書名	単価	部数	小計
日野市史　通史編 一　自然　原始・古代	2,400	1	2,400
日野市史　通史編二（上）　中世編	2,000	0	0
日野市史　通史編二（中）　近世編（一）	2,000	0	0

日野市史　通史編二（下）　近世編（二）	2,500	0	0
日野市史　通史編三　近代（一）	2,400	0	0
日野市史　通史編四　近代（二）　現代	3,000	0	0
日野市史　史料集　高幡不動胎内文書編	2,000	0	0
河野清助日記一　慶応二～四年	1,700	1	1,700
河野清助日記二　明治二～六年	1,700	0	0
河野清助日記三　明治七～十一年	1,700	1	1,700
市制 40 周年記念企画展　大工場がやってきた　～産業で振り返る日野の昭和・平成　（図録）	300	1	300
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語　（DVD）	500	1	500
市制施行 50 周年記念特別展 日野市の半世紀　～移りゆくまちの過去と今　そして未来～（図録）	800	2	1,600
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書　改訂版	1,500	13	19,500
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語　日野市郷土資料館ブックレット 1	200	16	3,200
日野の昆虫ガイドブック	1,100	0	0
新・日野の動物ガイドブック	1,200	0	0
たきびの詩人 巽聖歌　日野市郷土資料館ブックレット 2	200	11	2,200
日野用水開削四五〇周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～（図録）	500	7	3,500
たきびの詩人　巽聖歌資料集 1　―　野村七蔵から巽聖歌へ　―	1,600	0	0
日野市域における　サイノカミ・どんど焼き行事調査報告書	600	1	600
合計		55	37,200

4　博物館連携

（1）東京都博物館協議会

R7.6.17	第1回総会および研修会　会場：東京都美術館 「美術館・博物館におけるアクセスビリティの向上」講演および特別展見学
R8.2.25	第2回研修会「ミュージアムDX実践ガイド」について(オンライン)
会報の発行No.133（R7.9.30発行)、No.134（R8.3.31発行）	

（2）東京都三多摩公立博物館協議会

R7.6.5	役員会・総会・見学会 会場：くにたち郷土文化館・滝乃川学園本館（国登録有形文化財）見学
R7.11.21	第１回研修会　東京都三多摩公立博物館協議会・三多摩地域資料研究会　合同開催 「大学の歴史と大学史資料館から多摩地域を知る」 会場：中央大学　大学史資料館・法と正義の資料館
機関誌『ミュージアム多摩No.47』(R8.3.31発行)、HPの公開などを実施	

5　教育普及事業

（1）講座・体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人数
R7.11.2	文化財ウィーク第一蚕室の公開糸繰り体験	八王子長田養蚕	旧日野桑園第一蚕室	267
R7.11.8･9	文化財ウィーク第一蚕室の公開	解説ガイドボランティア	旧日野桑園第一蚕室	1,012
R7.12.5	第18回たきび祭前夜祭「たきびの詩人巽聖歌　お話と朗読･歌のつどい」(お話「生誕120年記念　巽聖歌と与田準一」ほか)	(お話)元日野市郷土資料館職員、(朗読)「うづき」、(歌のつどい)日野市内歌手、演奏者	旭が丘地区センター	52
R8.3.14	化石でたどる大昔の日野	東京学芸大学准教授	多摩川	18
R8.3.17	程久保川の昔と今を歩く	七生丘陵調査団	程久保川沿	10
合計	5件			1,359

※　そのほかの講座・体験学習会は、事業別に紹介。

（2）連続講座　古文書講座

月 日	内 容	講 師	会 場	延べ人数
R8.3.14･22･28	古文書講座	日野市文化財保護審議会委員	日野市郷土資料館	63

（3）出張事業（展示及び講師派遣）

ア　学校への出張授業

月 日	学校名	学年	内 容	人 数
R7.9.18	仲田小学校	3年	日野市の用水①	79
R7.10.15	日野第六小学校	6年	旭が丘地区について	150
R7.11.6	仲田小学校	3年	日野市の用水②	79
R7.11.27	七生特別支援学校	高等部1年	産業と生活	34
R8.1.15	日野第六小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	153
R8.1.22・23	日野第七小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	114
R8.1.24	平山小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	117
R8.1.29	潤徳小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	125
R8.1.30 2.18	南平小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	85
R8.1.30	平山小学校	6年	総合学習平山や日野市の歴史	17
R8.2.4	滝合小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	62
R8.3.4	日野第三小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	58
R8.3.17	日野第五小学校	3年	日野市のあゆみ、くらしの道具	137
合計	13件			1,210

イ　その他　講師派遣、出張パネル展など

月 日	内 容	会 場
R7.4.2	令和 7 年度新人研修　講師派遣	日野市役所
R7.3.29～9.25	花も実もある七生丘陵散策コース（草編）	平山季重ふれあい館
R7.10.10～12.11	花も実もある七生丘陵散策コース（草編）	百草図書館
R7.3.26～4.24	日野市の歴史的公文書パネル展	日野市役所
R7.12.6	第 18 回たきび祭　巽聖歌パネル展	旭が丘中央公園
R7.12.12～26	パネル展「明日に伝える戦争体験　戦後 80 年～平和をつなぐ」	日野市役所
R7.11.29～12.28	パネル展「電車とバス高幡不動駅と地域交通の発達」	高幡図書館
R8.3.14	東光寺・四ツ谷ミステリーツアー さかえまち児童館ハイキング	さかえまち児童館ほか
R8.3.25～6.29	パネル展「七生丘陵散策コースで発見　絶滅危惧種」	平山季重ふれあい館
合計	9 件	

（4）レファレンス事業　　電話・E メール・手紙などで寄せられた質問への調査回答　68 件

（5）博物館実習　実習期間：
R7.9.3･4･5･6,9.10 （追加日　8.23･24, 9.14)のうち 6 日間　7 人

6　所蔵資料活用事業

（1）ふるさと文化財課・図書館共同事業「歴史的公文書デジタル化事業」
＜地域の歴史や歴史事象を物語る重要な資料＞＜市政の歩みを伝える資料＞＜市政を検証する上で重要な資料＞として選別された日野市の歴史的公文書（「旧七生村文書」及び「旧日野町・日野市行政文書」）の年度別箱詰め作業（昭和 20～50 年代）を中心にデジタルデータの確認・公開に向けての精査を行った。

（2）資料の貸出事業

貸出先	資 料	目 的
中央公民館	大正期の平山の風景(大沢道平画)	「へいわえんにち」に展示
被爆 80 年日野市民実行委員会	戦争資料関連展示パネル	被爆 30 年平和のための原爆展（来場者 230 人）
日野第四小学校	脱穀機ほか	総合的な学習の時間　脱穀体験
府中市郷土の森博物館	玉南鉄道開通式次第・絵葉書ほか	「知る人ぞ知る？！　玉南鉄道」に展示
瑞穂町郷土資料館	三十日の月（稲生物怪録絵巻）	「むさしのもののけ譚」に展示
合計 5 件		

（3）資料の撮影・閲覧申請

目的	HP掲載、書籍掲載（一般書籍・博物館刊行物・発掘調査報告書、記念誌）、町歩き資料、学習課題、講演会、商工会展示、個人利用、モノレール広報誌、テレビ放映
資料	風景写真（昭和）、武蔵名勝図会、字限図、縄文土器、巽聖歌宛て絵はがき、平村絵図、肖像写真（青木角蔵・杉山又吉・巽聖歌）、蚕糸試験場第一蚕室写真、玉南鉄道絵葉書
合計18件	

7　資料収集保存・調査事業

（1）資料収集保存事業

項 目	内 容	件数等
資料寄贈	衣紋かけ、電動水車模型、昭和初期教科書、出征時寄せ書き、古文書、生活用具	6 件
資料購入・製作	Lafcadio Hearn,Gleanings in Buddha-Fields（『仏の畠の落穂集』初版）、武州多摩郡百草村松連寺略縁起百草松連寺関係刷物、『百草居新作画集』第 1 巻、『雑記帳』1 巻 3 号、『鮫陵源案内』、『都立多摩動物公園案内図』、『大正 4 年 4 月電燈営業案内』、『つくし』8 号・9 号、『差出の磯』ほか	37 点
収集資料の整備ほか	程久保ボランティアの協力を得て民俗資料整理を実施	
資料修復	「小林権大夫年貢割付状」ほか、絵図・地図類の接合裏打ち修復	9 点

（2）調査事業

ア　勝五郎生まれ変わり物語調査事業（市民協働調査　勝五郎生まれ変わり物語探求調査団）

項 目	内 容	人 数
会議	例会・総会　12 回	123
調査団公開講演会	R7.5.18　会場：郷土資料館　講師：神奈川大学国際日本学部歴史民俗学科　准教授「藤蔵墓所の調査と各地の転生譚―生まれ変わりの民俗学序説―」	33
記念行事	R7.10.4　会場：新町交流センター 第 16 回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベント 講演会「明治の生まれ変わり譚をめぐって」 講師：横浜国立大学名誉教授	108
特別展「小泉八雲と勝五郎生まれ変わり物語」	会場：新選組のふるさと歴史館（9.13～11.30） 特別展入館者数　3,125 人（調査団展示ガイド 40 人）	3,186

	R7.11.1「ゆかりの地見学会」21 人（一般 14 人、調査団 7 人） ※調査報告書改訂版 6 冊、ブックレット 29 冊、DVD3 点を歴史館で販売。	
合計		3,450

イ　七生丘陵調査事業（市民協働調査　七生丘陵調査団）

内 容	回数	延べ人数
定例会（12 回）・総会（1 回）	12	45
室内資料整理作業や打合せ	3	11
七生丘陵の野外活動　観察調査ほか	27	92
R8.3.17「程久保川の昔と今を歩く」市民向け講座 講師・案内役調査団 4 人　　一般参加者 10 人	1	14
パネル展「七生丘陵散策コースで発見　絶滅危惧種」のための準備を年間通して実施　展示会期 R8.3.25～6.29	―	―
合計	43	162

ウ　古文書等調査事業

項目	内 容	回数	延べ人数
日野の古文書を読む会との協働調査	古文書整理	21	105
	古文書解読	42	376
	例会・総会	11	235
	小計	74	716
日野の昭和史を綴る会との協働調査	日野本郷の地名調査、歴史・民俗等の地誌調査	12	121
その他の古文書等調査事業	市内借用文書ほか地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影		
合計		86	837

エ　民俗調査（市民協働調査　程久保ボランティア、サイノカミ・どんど焼き勉強会）

項 目	内 容	回数	人数
民具調査	脱穀機調査（万石、くるり棒、唐箕、足踏脱穀機の計測、文字情報の採取等）	43	128
サイノカミ調査	例会（10 回）、コロナ禍におけるサイノカミ・どんど焼き行事のまとめ、変化するサイノカミ行事の記録。	10	47
合計		53	175

8　古文書等歴史資料整理編集委員会

開催日・会場	議 事 案 件
R7.6.19 郷土資料館	(1)令和 6 年度の資料調査事業について 市域（日野本町ほか）の資料調査について (2)令和 7 年度の事業計画について 特別展・企画展に関わる資料調査と行事及び歴史的公文書に関すること（パネル展の開催、助成事業報告など）、収蔵品管理システム等について (3)広報「みんなのふるさとこぼれ話」について (4)その他
R7.11.13 日野市役所 新選組のふるさと歴史館	(1)令和 7 年度の資料調査事業について 市域（百草・日野本町・学校関係）の資料調査及び歴史的公文書のデジタル化に関わる資料整理について (2)展示関係 「明日に伝える戦争体験　戦後 80 年～平和をつなぐ」、特別展「小泉八雲と勝五郎生まれ変わり物語」（於 歴史館）、「平山季重と西党～日野の武蔵武士の痕跡を求めて～」について (3)広報「みんなのふるさとこぼれ話」について (4)その他　※終了後、特別展「小泉八雲と勝五郎生まれ変わり物語」見学
R8.2.19 郷土資料館	(1)令和 7 年度の資料調査事業について 市域（日野本町・高幡・豊田）及び市外（館林市・法政大学・世田谷美術館）での資料調査及び展示や古文書の修復・古文書講座等について (2)広報「みんなのふるさとこぼれ話」について (3)その他

9　百草・倉沢エコミュージアム事業

件名		内　容	回数又は件数	人数
百草・倉沢エコミュージアム事業	万蔵院台遺跡縄文資料調査事業	考古学体験： ・子ども向け講座「水洗い・縄文マグネット作り」（R7.8.2） ・出張講座「縄文土器拓本体験」（考古隊・出張公民「観」イベント）（R8.3.28）	2	53
		考古隊活動：「万蔵院台縄文コレクション」整理作業月 4 回土曜日実施。真慈悲寺調査センター	46	146
		考古隊講座：「縄文土器煮炊き実験」共催東京都埋蔵文化財センター　（R7.12.1）	1	8
	真慈悲寺調査研究事業	講演会「江戸時代百草の領主林と新発見小林権大夫文書について」講師：日野の古文書を読む会会長（R7.9.14）	1	43
		ガイド　： ・国指定重要文化財「銅造阿弥陀如来坐像」公開時の対面解説ガイド(真慈悲寺調査ボランティア）（R7.9.14） ・真慈悲寺と中世瓦 展示解説ガイド(真慈悲寺調査ボランティア・郷土資料館展示室）（R8.3.29）	2	146
		パネル展示： ・「百草八幡神社の歴史」（百草図書館）（R7.3.26～7.31） ・「小林権大夫一族の足跡～江戸時代前期の百草の領主について～」（百草図書館）（R7.8.27～9.19） ・「幻の大寺院真慈悲寺の紹介」（百草図書館）（R7.12.13～R8.2.13）	3	－
		真慈悲寺研究会月 2～4 回活動実施（歴史散策ガイド増補・改訂版編集等）	55	247
	自然	春の百草真堂が谷戸を訪ねて　講師：真堂が谷戸蛍の会（真堂が谷戸上流・下流部、百草公園東緑地、新葉山緑地）（R7.5.24）	1	9

＜参考資料＞

Ⅱ　日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

（目的）

第1条　この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（点検及び評価の対象）

第2条　日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

（評価の方法）

第3条　資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

（教育委員会への報告書の提出）

第4条　資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

（評価結果の公表）

第5条　資料館は、評価の結果を市民に公表する。

（評価結果の活用）

第6条　資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

（庶務）

第7条　評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

（委任）

第8条　この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付　則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

＜参考資料＞

Ⅲ　第11期 日野市郷土資料館協議会委員名簿

令和８年９月現在

番号	氏　名	専門分野など	期
1	佐藤 福子 （副委員長）	学識経験者 （歴史・古文書研究）	5
2	片山 敦 （委員長）	学識経験者 （生物・環境教育）	5
3	河合 今日子	公募市民	3
4	藤森 寛行	公募市民	3
5	樋口 智子	学校教育関係者 （小学校校長）	1
6	伴 光明	学校教育の関係者 （中学校校長）	2
7	柳元 太郎	社会教育の関係者 （郷土教育研究）	2
8	小野 一之	社会教育の関係者 （地域史・博物館学）	1
9	八嶋 泰子	家庭教育の向上に資する活動を行う者	1
10	齊藤 有里加	学識経験者 （保全生物学、科学技術史）	1

第11期任期　　自　令和8年3月4日　　至　令和10年3月3日

令和8年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
（令和7年度事業）

令和8年９月

日野市ふるさと文化財課
（郷 土 資 料 館）

〒191－0042
東京都日野市程久保550番地
電話 042－592－0981
FAX 042－594－1915